



鈴置さん お世話になりました！お元気で！また、福井にも遊びにきてんでの～



坂川市長も元気で公務復帰を！

06.06.16 活動センター

活動報告

6月18日(日) LRT部会
7月 1日(土) 武生コミバス勉強会
7月 4日(火) 福鉄・駅の文化祭企画打合せ
7月10日(月) 福鉄活性化協議会 WG 開催
7月12日(水) IRE LRT研究会 参加
7月20日(木) LRV 勉強会

今後の予定

8月 9日(水) IRE LRT研究会 開催
8月10日(木) まちづくりフェア企画打合せ会
8月18日(金) 例会・理事会

ゆうじんの部屋 書籍紹介

ハーマン・E・デイリー

「持続可能な発展の経済学」

新田功・蔵本忍・大森正之共訳 みすず書房

エントロピーの経済学を定式化した N ジョージスク・レーゲンは広く日本に紹介され、エントロピー-経済学として私の属しているエントロピー学会でもよく知られているが、その弟子が著者であり、ボールディングなど他の資源有限性を指摘した学者なども紹介しながら、資源有限性を前提とした経済学を解いている。

数式はほとんど出てこないで、読みやすいが、この本を教科書に現実問題の解決策を見出すことは難しい。ただ、希少な資源であっても、大気のように占有不可能なもの以外は、あるていど価格メカニズムが需要を調整するはずであり、どのような資源が市場経済になじまないかといった分析が少し物足りないと感じた。「エントロピーの法則」や「成長の限界」等を読んで基礎知識を持ってから読んだほうが楽しく読めるであろう。

美濃部 雄人 Minobe Yujin

明日の金沢の交通を考える市民会議 活動報告会に参加して 060624 高橋 八州太郎

日時：平成 18 年 6 月 24 日（土）午後 2 時より 3 時 30 分まで

場所：アイム会議室

1. 今日の会合の意義

「明日の金沢の交通を考える市民会議」は金沢市交通政策課が事務局をしている市民団体です。今日は平成 17 年度の活動報告を一般市民に開示し、後日、提言書として金沢市長に手渡すとのことでした。

2. 活動報告 3 題

「主要バス停の快適度調査と乗換システム改善に向けた調査」について

2014 年北陸新幹線の金沢開業が本決まりとなった今、バス・鉄軌道の公共交通インフラの抜本的利便性向上が必要との観点から、既存のバス公共交通に関する問題点や課題について実施調査を実施した。

バス停を 全天候性、安全性、快適性、デザイン性、地域協働型、総合評価した。対象バス停は 8 箇所のバスターミナルを中心に 16 箇所のバス停調査結果を出した。他県の優良バス停として京都、富山、福井（大手 3 丁目・コミバス）の例が参考例として挙げられていた。やはり、他の地域の方が見ても「優良」なものは「優良」なのですね。

金沢市の中心部のバス乗換システムとして、市内のバスルートの一部改変と乗継情報の表示を見やすくすること、また IC カードの使用を原則とし、更に将来 LRT 導入を前提としたバスルート設定を計画していることが感じられた。

「金沢外環状道路・山側幹線」開通前後の調査

昨年 8 月 13 日に道路祭りに参加した約 194 名からアンケートの協力をいただいた。昨年 9 月頃の開通であったので開通後は想定での回答であった。特に、開通することにより、中心市街地の交通量は減少すると思うかとの問いには 75%の方が減少すると回答。沿線住民の声として「山側環状線」は地域高規格道路なのに、一部平面交差で一般道路部分を交互に走っていることから、スピード感の違いで事故がおきるのはないかとの心配を指摘。また、車の風きり音がすごいこと、停車しているとクルマの通過する際の風圧でクルマが揺れるなど、具体的に走行速度が上がっていることがわかると報告。

昨年度は、開通前の調査だったので、今年度は引き続き実施して、開通後の状況を確認していきたいと考えている。

横断歩道の安全性調査

バリアフリーが叫ばれて久しいが、車道で分断された町を繋いでいる横断歩道、横断歩道橋、横断地下道について利用しやすいか、期待どおり機能しているのかどうかを調べたものです。犀川以南の主要な道路について調査されている。発表された方が 10 年前に脳梗塞を患った方でしたのでかなり説得力があった。一番使いにくい横断歩道はもと、駅前に掛かっている横断歩道だということです。理由は信号点灯時間が短いとのこと。健常者にはわからないことです。

質疑応答/意見等

数人から調査の細かな内容についての質疑応答があった。最後の挨拶で、「福井では既にトランジットモールができています」と実感を述べていた。詳しく聞くと、ひげ線のところは信号もなしで自由に横断できていることだと。県外からきた方の素朴な感想だと思ふ。私もその一人でした。まさにトランジットモールの DNA があると思ふ。

中部路面電車サミットに参加して

三村泰広

今回の中部路面電車サミット開催地である豊橋市は、福井市よりやや大きい中核市に指定される人口 38 万人の愛知県東三河地域の中心都市です。豊橋市は今年 8 月 1 日で市政 100 周年を迎え「とよはし 100 祭」という様々な催し物や試みが行われていました。今回の中部路面電車サミットもその一環として位置づけられています。

サミットは、はじめに合唱や落語など場の雰囲気をやわらかくする様々な趣向が凝らされながら、常に市民に語り掛けるスタイルで進められていました。一つ一つの演題にまちの生活に深く浸透した豊橋の路面電車（市電）の情景が散りばめられ、新鮮な感覚で豊橋のまちを知ることができました。また、中部地区の都市の事例紹介では、富山ライトレールの最新情報にはじまり、内田会長による ROBA の会の活動が報告されるなど、既存の情報を再確認できたり、新しい取り組みを知ることができました。パネルディスカッションでは豊橋の市民、行政、豊橋鉄道のそれぞれの視点から思いの市電に対する思いを熱くかたられていました。最後に、コメンテータの服部重敬さんから、世界の都市の事例を交えた路面電車の役割と課題について語られ、きりっと締まった形で終わりました。

その後、懇親会を兼ねたビール電車に乗車しました。その中で豊橋市の行政側の方とお話でき、路面電車に対する行政側からのバックアップの強さを感じました。また、ビール電車後の二次会にも参加させていただいて、とよはし市電を愛する会の皆さんや RACDA 高岡の皆さんと交流し、路面電車や自分たちの住むまちを舞台に議論を重ねました。

サミットを通じて感じたのは、路面電車や公共交通機関を愛して活動している人たちはみな、自分の住むまちもとても愛しているということでした。理屈ではない、心意気で活動することの強さと大切さを改めて実感しました。ただサミットの中で、富山ライトレール開業など中部地区で様々な動きがあったことを考えると、色々な地域の実情について市民の皆さんと情報共有する時間をもう少しとることが出来ればもっと良かったように思いました。

豊橋市では、約一ヶ月に渡って豊橋鉄道沿線にある公園で縁日が開かれており、浴衣姿の女性や子供づれの親子、お年寄りの方などが路面電車を利用する姿が見られ、夜にも関わらず、非常に華やいだ雰囲気がありました。このような雰囲気が福井のあちこちで、また都市再生に苦しむ地方の都市で見られるようになるよう、努力を続けたいと思いました。



鈴置さん送別会
スナツプ



LRT 部会からの報告 060705 高橋 八州太郎

平成 18 年 6 月日に県民会館 5 階県民活動センター会議室で開催しました。今年になって初めてなので、昨年までの活動について概略説明がなされた。

昨年は、数回開催されたが参加者が少なく、成果としては不十分であったこと、検討事項としては、冊子をつくるのが最大の目標でした。冊子なのか、チラシ的なものなのかといった表現方法や内容、更には広報のやり方についての議論をしてきたが、時間的な制約があり、十分な意見の一致をみることができなかったと報告があった。論点の一つに、LRT 提案範囲をどこまで行うのか？嶺北地域（三国、勝山等を含む）まで広げてかんがえるのか？福井市中心部を対象とするのかである。

今回も前年の経緯も踏まえていろいろな意見が出された。新幹線問題、連続立体交差事業など、更には福武線に低床車が導入されたことも相まって、なおの事、提案範囲については議論が集中した。曰く、LRT は郊外から市街地へ入るのでやはり嶺北地域に焦点をあてるべきであるとする意見、昨年の中部地区路面電車サミットでの ROBA としての 3 つの提案をしたことで福井市を中心とした方がいいのでは？とする意見が大半であったように感じた。

そして、話が連続立体交差事業の話に移り、白板を使って具体的に説明がなされ、新幹線高架化、えち鉄の高架化についても、今までの経緯と問題の本質について話あえた。まだ、充分ではないが、お互いにいろんなことが話せた、聞けたという点で有意義であったと思う。まずは継続をするということを実感した。参加者は内田会長を含む 7 名でした。

越前市公共交通活性化協議会勉強会からの報告 060702 高橋 八州太郎

先日の越前市で開催された協議会に高橋が参加した。そのことを受けて越前市在住の岸本宅において勉強会を開催した。協議会での資料説明をもとに説明がなされた。

平成の大合併で誕生した旧武生市と旧今立町が合併し『越前市』となったことは説明するまでもないが、それぞれに生活交通としての「コミバス」が運営されていた。合併に伴い新たにルート再編、それに併せて鉄道との連携などについても検討することを目標とし越前市が設定した協議会です。福井大学の川上教授が委員長となり、市民の代表を含む、15 名が囑託を受けた。NPO からは高橋が出席。初回は、昨年度までの調査結果の報告と今後の進め方について事務局（越前市）から説明があり、その後種々の意見がだされた。

協議会ができた経緯としてとなりの鯖江市がコミバスを既に運営しており、それに負けじと急遽ルートが設定されたため、総花的な感が否めない。とは岸本氏の言。実際、週に 1 日だけ、それも 1 日 4 便しか運行されていないバスに果たして乗るだろうか？岸本氏の母上は最初利用していたらしいが、今は不便すぎて利用していないという。しかし、よくルートを見ると各地区の公民館や公共施設を極力繋ぐような努力をみてとることができる。また、一便あたりの利用者は 9 名と利用者は多い。福井市でいうと城東・日之出ルートが近い。【9.5 人/便(但し 23 便)である】。利用者がバスの運行に自分のライフスタイルを合わせていることが大きな要因と考えられる。

また、旧今立の場合、年間の利用者が約 41,000 人と多いが、約 1/2 弱がスクール利用となっており、当然ながら料金は無料となっている。

今後は、シビルミニマム（最低水準）をどう設定するか、ルート、料金などについてコンサルタント、事務局が提案するものに対して、ROBA などの提案をする予定である。

（参加者 岸本・内田・高橋）

鈴置さん、お疲れ様でした！

ROBA 会長 内田桂嗣

平成 18 年 6 月 23 日福井鉄道(株)を退社されました。平成 10 年 6 月に名古屋鉄道から出向で福井の地に来られ、8 年になります。

= 偶然ですが、私も保険会社を退職し福井に来たのが平成 10 年(11月)です。= 世間では平成 3,4 年ごろから福井鉄道福武線の廃線の話が飛び交っていて、平成 10 年というと最悪の状態・まさに火中の栗を拾いにやってきたという状況ではなかったでしょうか。しかしどうでしょう、トランジットモール社会実験や各種イベントへの参画、本年には低床型車両の導入もあって乗客の減少から上昇の勢いにまでになりました。福井鉄道の活性化という視点だけでなく福井県の公共交通の助っ人としてご活躍いただきました。

そして、ROBA の会結成から今日まで、会員としても積極的なご意見をいただきました。時には立場上言えないこともあったでしょうが、立場を超えて本音で意見交換ができたことを ROBA 会員を代表して御礼を申し上げます。

今後は一市民として、ROBA へのさらなる助言や活動の参加をこころからお願い申し上げます。

= なお、鈴置さんは今後も ROBA 会員として活動されるとのこと です =

平成 18 年 7 月 10 日

照ちゃんの気になる風景 1



作 / 漆崎 耕次

よほど急いでいたのか？ 運転がにがてな人か？ 車幅を知らない人か？・・・運転している人はどんな人か、とても興味があったので待ち伏せしたのですが・・・すぐには戻ってきませんでした / ハートピア春江

編集後記・・・編集委員より一言

林(変集長)

「里山のゴルフ場は森林に戻し適正な管理を！」

塚谷(編集委員)

「昨日、生まれて始めて避難所で一泊しました」

内田(発行責任者)

「福鉄が今変ろうとしています。楽しみだ！」

事務局 特定非営利活動法人

ふくい路面電車とまちづくりの会(ROBA)

910-8031

福井市種池1丁目1905-3

TEL: 0776-25-7968

e-mail : roba@mbh.nifty.com

URL : <http://roba.cocolog-nifty.com/roba/home/>